

		チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	サッカー、教室プログラムともに定員に対して十分なスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切であるか	法定の職員数を確保している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	教室はバリアフリー化されていない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	月一回、職員会議を行い、業務改善について話し合っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	モニタリングの際に保護者の意向を聞いている。保護者向けアンケートは今後、実施予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	毎年公開している。令和1年度分も掲載予定
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	社内研修を行い、社外研修にも参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	面談を行い、アセスメントを実施し個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	アセスメントツールは使用していない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	職員間で話し合い立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	全てのプログラムで子供たちが飽きないようにオーガナイズしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	長期休暇中は基本的にプログラム内容を変えることはしていない。休日プログラムは月に複数回実施。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	サッカーなど基本的には集団活動になるが、対応は個別に支援している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	プログラム前の打ち合わせで支援内容や分担を共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	翌日の打ち合わせの際に前日の支援の振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	毎日のプログラム内容、子供たちの様子を記録し、今後の支援の参考にしてている。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	日常的に子供たちの話を聞くとともに、定期的に保護者との面談を行い、支援計画の変更、更新を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	それぞれ違う目的を持った数種類のプログラムを実施している。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	セルフプランが多く、また川崎市、横浜市の相談支援はあまり機能していないらしくサービス担当者会議は開催されていない。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	こちらから保護者に学校の学習支援計画の提供を依頼すると提供してくれる保護者がいる程度で学校との情報共有は進んでいない。特別支援学校では事業者との連絡会が行われているので参加している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	利用中の児童の中に医療的ケアが必要な児童はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	ほとんど連携はとれていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	卒業後に通う施設から情報提供の依頼があれば積極的に協力したいと考えている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	連携はほとんどされていない。情報は保護者からもらってくださいという返答を受けた。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	ほとんどの利用児童が通常の学校に通っている(支援級を含む)ため日常的に障害のない子供との活動をしている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	参加していない。支援業務に支障をきたさない範囲で参加していきたいと考えている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	対面やメールなどで気になることは伝えあうようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	ペアレントトレーニングは行っていない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約の際に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	面談の際や児童の送迎の際に相談を受け、助言などを行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	以前、保護者のサロンを開けるよう保護者の意向を聞いたが開催を望んでいる保護者が少なく開催していない。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情があった際には丁寧に対応し記録を残している。契約の際に苦情対応窓口などの説明を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	メールやSNSで一か月の予定やプログラムの内容を発信している。
	35	個人情報に十分注意しているか	個人情報に係る書類は施錠できるキャビネットに保管し、パソコンにはパスワードをかけている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	児童の特性に合わせたコミュニケーションをとっている。保護者とはメールやSNS活用している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	曜日ごとにプログラムが決まっているため特別な行事は行っていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	各種マニュアルは職員に周知されているが、保護者には周知されていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	定期的な避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待防止の社内研修を行っている。また、外部研修にも参加していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	身体拘束な必要な可能性については契約の際に保護者に説明している。支援計画に記載が必要なケースは今のところない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	食品の提供は行っていないが、アレルギーの把握は契約の際に行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で回覧している。